

**「大学生に対するクレジットカードに
関するアンケート(平成27年度)」
結果報告書**

平成27年2月



一般社団法人

日本クレジット協会

1.概要

- 目的

大学生におけるクレジットカードの所有の有無とクレジットカードに関する意識を調査するため。

- 回答者:636名

①日本大学商学部 「特殊講義 金融サービス・ビジネス」受講生(2~4年生)

②流通科学大学商学部 (1年生)

③明治大学国際日本学部 「金融サービス演習」受講生(2年生)

④立正大学法学部 「現代社会と法Ⅱ(消費者信用—クレジットと関連法)」受講生(3~4年生)

⑤白鷗大学経営学部 「金融政策論」受講生(1~4年生)、「国際金融論」受講生(1~4年生)、「銀行論」受講生(2~4年生)

⑥関西看護医療大学 (1年生)

- 調査日

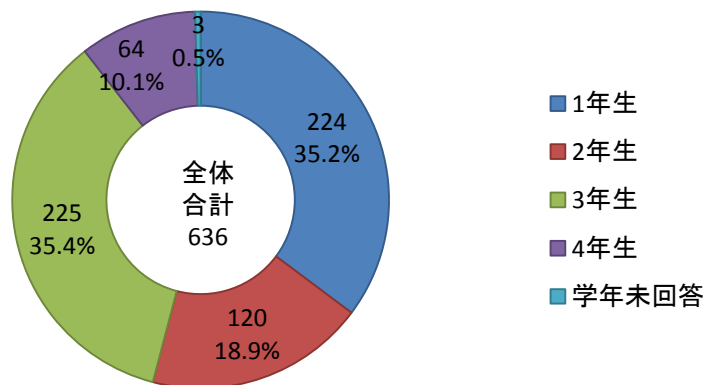
平成27年6月4日(日本大学)、平成27年6月12日(流通科学大学)、平成27年7月17日(明治大学)、平成27年10月(立正大学)、平成27年11月(白鷗大学)、平成27年12月8日(関西看護医療大学)

2.回答者属性

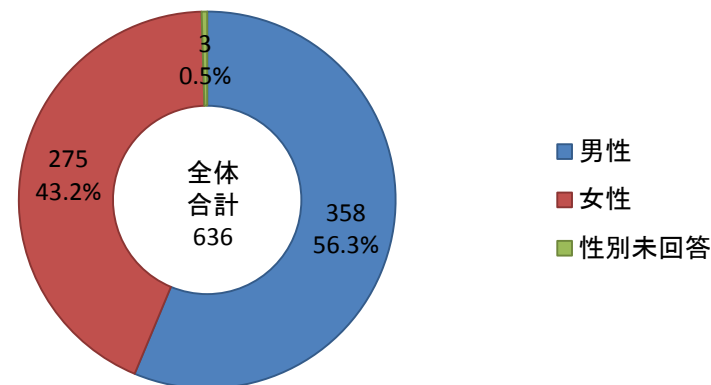
大学別内訳

回答者	1年生	2年生	3年生	4年生	学年未回答	総計
日本大学		60	50	37	3	150
明治大学		17				17
流通科学大学	129		1			130
立正大学			49	5		54
白鷗大学	7	43	125	22		197
関西看護医療大学	88					88
総計	224	120	225	64	3	636

属性(学年別)



属性(性別)

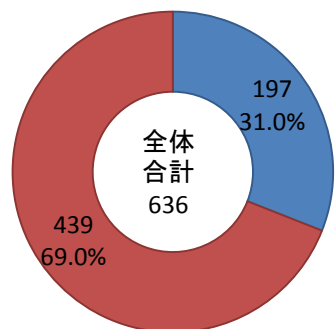


3.調査結果

(1) クレジットカード所持率:約3割がクレジットカードを所持

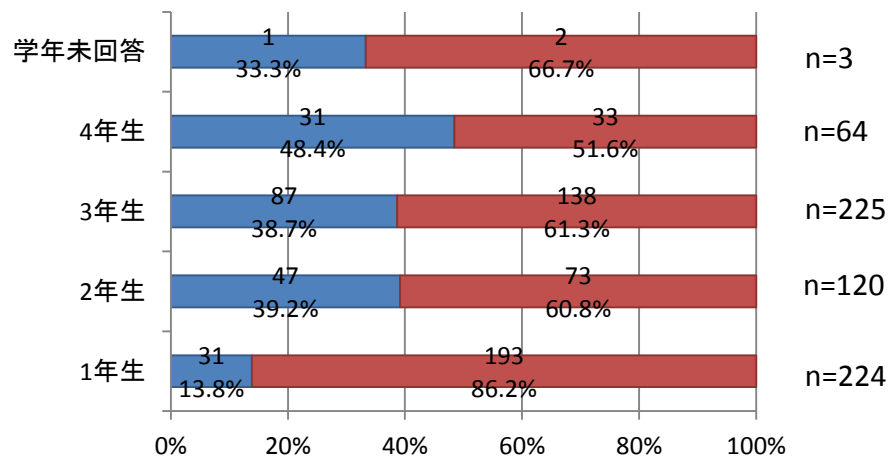
今回の調査では、大学生のクレジットカード所持率は31.0%であった。
1年生の所持率が13.8%なのに対し、4年生は48.4%と、学年が上がるにつれて所持率が高い傾向にある。

カードの所持率



■ 持っている ■ 持っていない

所持率(学年別)

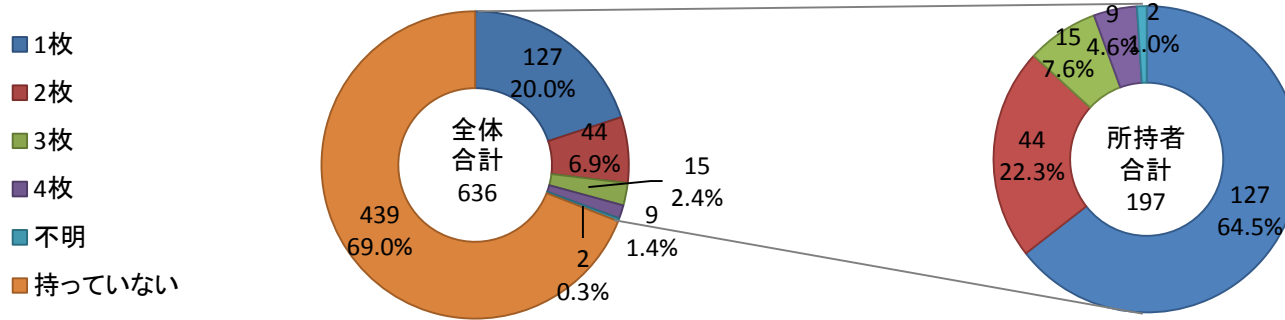


■ 持っている ■ 持っていない

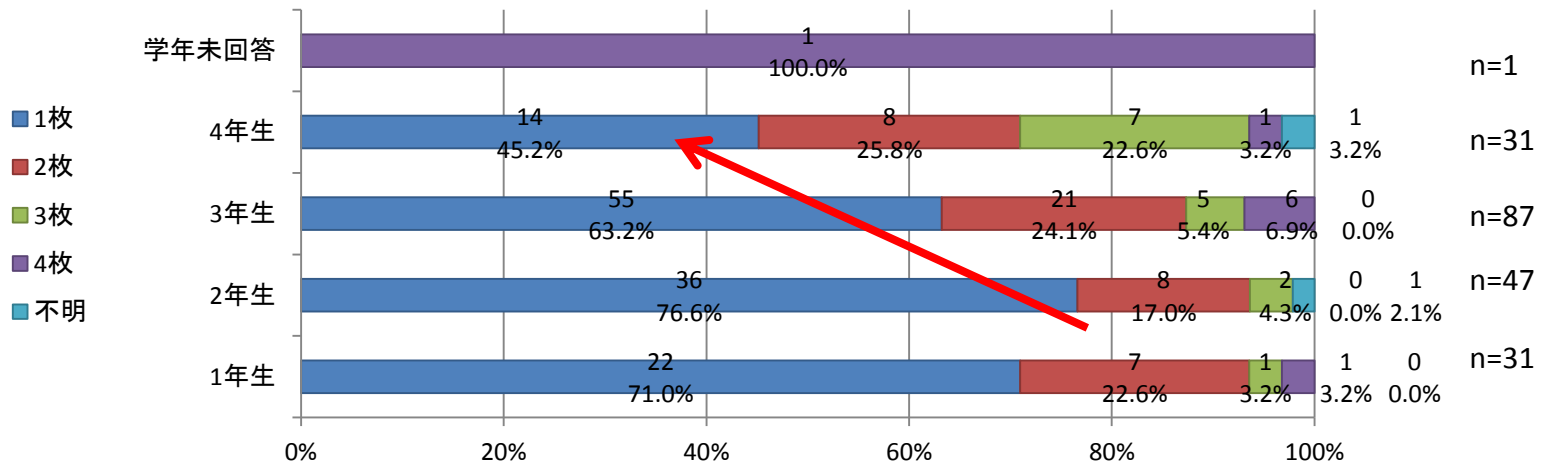
⇒(2) 所持枚数:平均1.5枚

カード所持者の平均所持枚数は、約1.5枚であり、全世代の平均枚数である2.6枚※より少ない。学年別でみると学年が上がるにつれ、複数枚所持する学生が増えていくことから、大学卒業後に複数枚所持する者が多いと思われる。 ※(一社)日本クレジット協会統計「クレジットカード発行枚数調査」より。

所持枚数

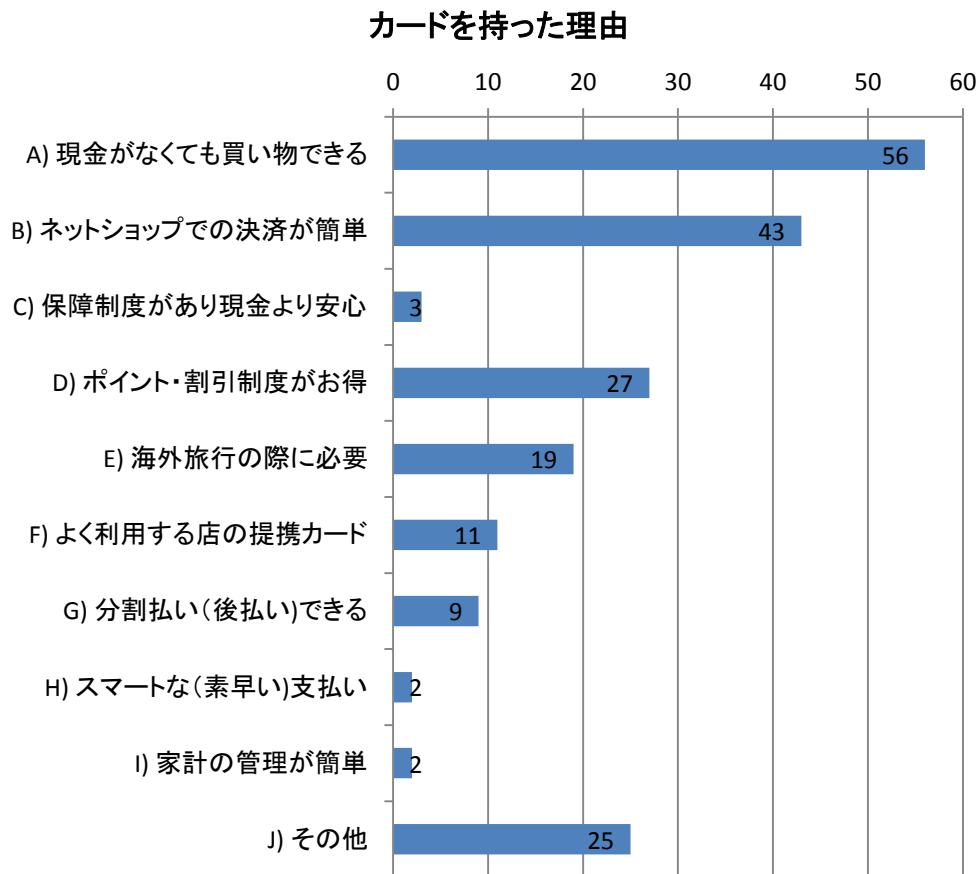


所持枚数(学年別)



(3) クレジットカードを持った理由: キャッシュレス決済の一手段として持っている。

「現金の持ち合わせがなくても買い物できるから」が最多で、次に「インターネットショッピング等で決済が簡単にできるから」が続いており、キャッシュレス決済の手段として、クレジットカードを作る学生が多いということがうかがえる。



《自由回答》

●資格関連

- ・TOEFLをうけるときにあった方がいいと思ったため。
- ・クレジットカードでの支払いのみの資格試験があったから。

●親の方針

- ・親に言われたから。
- ・父親の持っているカードの家族カード。

●その他

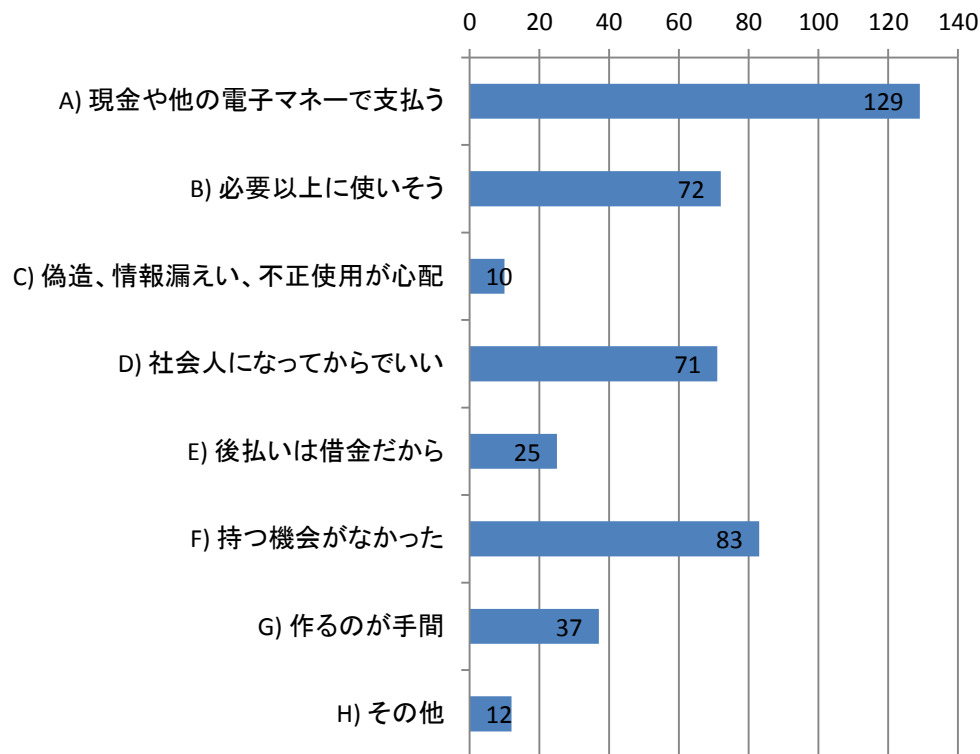
- ・ETCカードが必要だった。
- ・学生のうちの方が作りやすいと聞いた。
- ・上京してお金を送金されるよりカードの方が楽だから。
- ・アマゾンプライム会員の登録のため。
- ・デザインがかわいかった。

(4)クレジットカードを持っていない理由：現状で必要性を感じていない。

「現金や他の方法(電子マネーなど)で支払うため、必要性を感じないから」が最多で、次点で「持つ機会がなかった」が多く、現状の支払方法で不自由しておらずクレジットカードの必要性を感じていないのが主な理由と思われる。

一方、「偽造、情報漏えい、不正使用が心配」「後払いは借金だから」という回答は少数であり、不正使用、後払いなどへの不安感や抵抗感は少ないようである。

カードを持っていない理由



《自由回答》

- ・親にとめられているから。
- ・絶対に手数料がかかるものだと思っていた。
- ・自己収入していないから。
- ・未成年だから。
- ・外国人なので作れるかどうか分からない。

(5)総合的なイメージ:全体の半数がプラスイメージ。

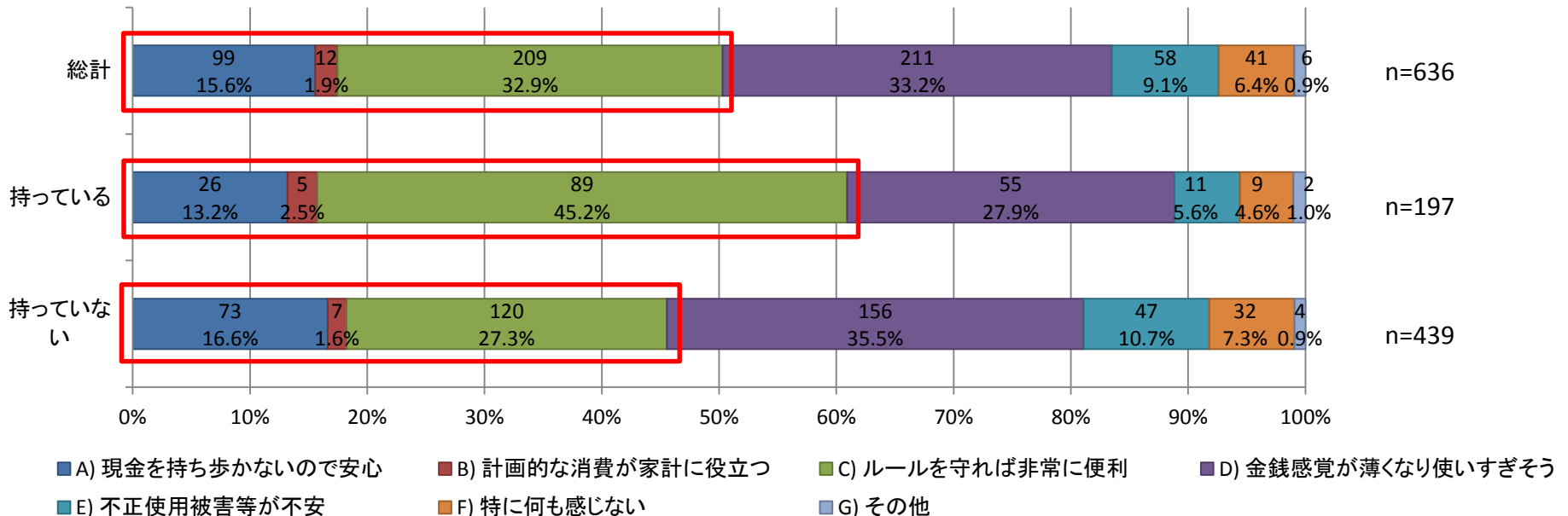
クレジットカードに対するイメージは、全体で半数の50.4%がプラスイメージを持っている。マイナスイメージは42.3%である。

プラスイメージの中では、「ルールを守れば非常に便利である」が最多で、次に「現金を持ち歩かないので安心」が続いており、利便性がイメージとして定着していることがうかがえる。

マイナスイメージの中では、「金銭感覚が薄くなり使いすぎそう」が最多となっている。

所有の有無でみてみると、所持者は60.9%がプラスイメージを持っているのに対し、非所持者は45.5%となっており、所有の有無がイメージに影響を与えていると思われる。

カードに対するイメージ

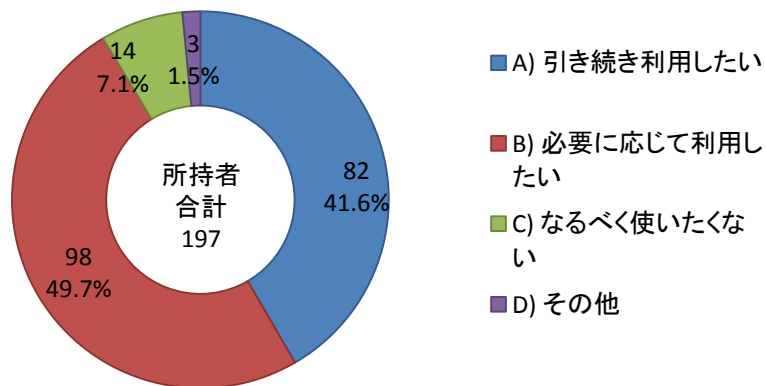


(6) 今後の考え:所持の有無にかかわらず、前向きな活用を希望する学生が大半。

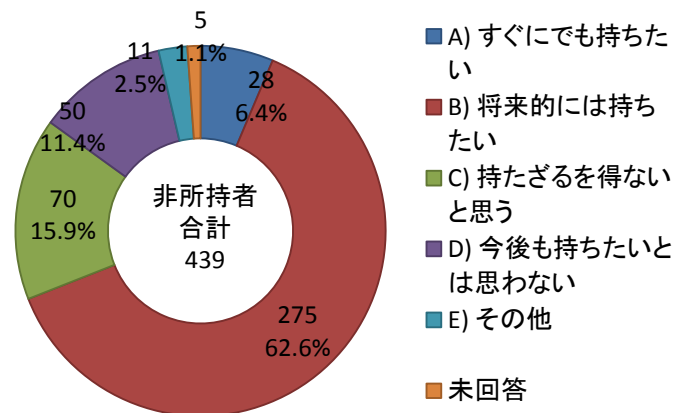
所持者に関しては、「引き続き利用していきたい」41.6%、「必要に応じて利用したい」49.7%と、今後も有効に活用していこうと考えている学生が約90%と大半である。

非所持者に関しても、「すぐにでも持ちたい」6.4%、「将来的には持ちたい」62.6%と、約70%が今後クレジットカードを持ちたいとしており、所持に関して前向きな意見が多い。

今後の考え(所持者)

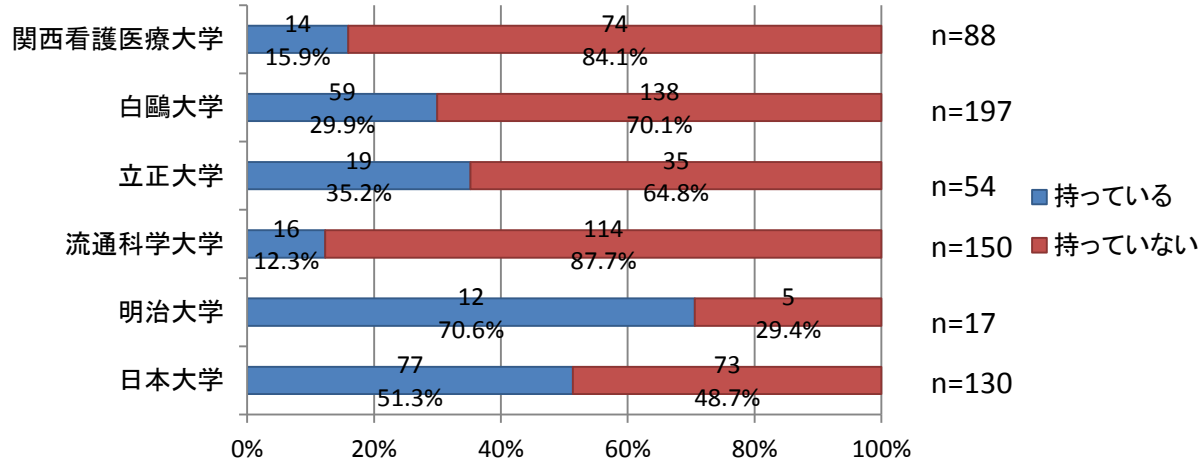


今後の考え(非所持者)

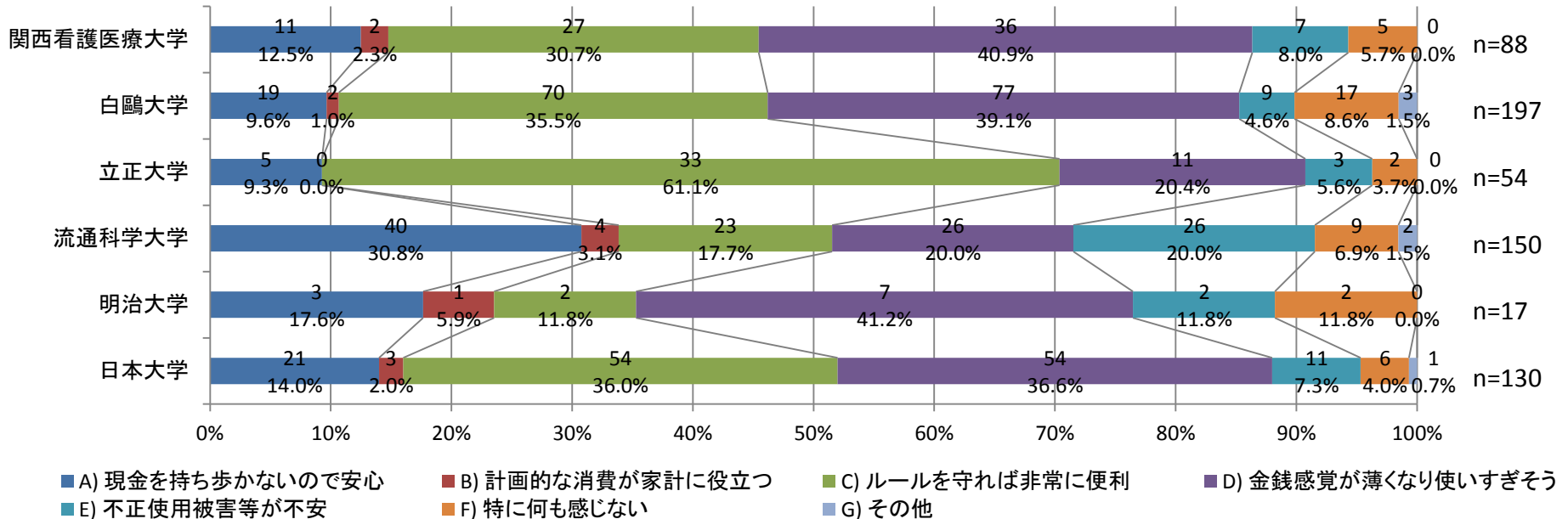


4.参考 ー学校別データー

所持率(大学別)



カードに対するイメージ(大学別)



- A) 現金を持ち歩かないので安心
- B) 計画的な消費が家計に役立つ
- C) ルールを守れば非常に便利
- D) 金銭感覚が薄くなり使いすぎそう
- E) 不正使用被害等が不安
- F) 特に何も感じない
- G) その他

5.まとめ

○今回の調査で、全体としては大学生の約3割がクレジットカードを所有しており、所有していない人の約7割も今後は持ちたいと考えていることから、多くの学生がクレジットカードの必要性を感じており、将来のクレジットカードの利用可能性が高いことが判明した。

○クレジットカードを持った理由としては、「現金の持ち合わせがなくても買い物できるから」「インターネットショッピングでの決済が簡単だから」など、キャッシュレス決済の一手段としての利便性に魅力を感じていることがうかがえた。

○総合的なイメージとしては、プラスイメージの方がマイナスイメージよりも高いことから（プラス50.4%、マイナス42.3%）、総じてイメージは良いということがうかがえた。特に、所持者と不所持者でイメージの割合に差があり、所持者はプラスイメージが高く（所持者：60.9%。不所持者：45.5%）、反対にマイナスイメージが低いことから（所持者：35.3%。不所持者：46.2%）、利用する中でマイナスイメージが払しょくされプラスイメージが強くなっていくと思われる。

○以上のことから、大学生に対しては、引き続き正しいクレジットカードの利用方法や利用上の留意点等について周知することを目的とした広報・啓発活動を行うことが重要と思われる。